



## 会長挨拶「子どもたちに寄り添う」 中井毅(2020.11.27就任)

コロナ禍で子供たちへの支援はますます大事になっています。私たちは病院に入院している子どもたちへのキワニスクール提供、寺子屋や子ども食堂、奨学金など、子ども支援を活動の柱にしてきました。コロナ禍で活動の制約は続きますが、多くの皆様の協力をいただき、ご提案を、受けながら、子どもたちに寄り添う活動をしっかりと続けていきます。

そのためには工夫が必要です。遠隔やオンラインなどバーチャル(V)な方法と、実際に直接、顔を合わせるイン パーソン(IP)の取り組みをうまく組み合わせることが大切です。私は両方の頭文字をとってVIP方式と呼びたいと思います。まず会員による講演と対話をVIPサロンとして立ち上げました。キワニスクールを利用している病院、協力している団体、学校、企業の関係者によるスクールフェスティバルをVIP方式で予定しています。池袋60階展望台で楽しみ食事する子どもスマイルイベントも行いました。コミュニケーションを維持し、強くしていくことに繋がればと思います。

そして今こそマスクでも笑顔。お互いマスクをしてもスマイルで接しながら、子供達のためのボランティア活動に取り組んで行きましょう。皆様、一緒に。



## 東京一望、広がる「スマイル」 新企画、池袋で開催 2021.3.30.

子ども支援の新企画「子どもスマイルinサンシャインシティ」が、東京・池袋のサンシャイン60展望台を舞台に開催されました。東京キワニスクラブが主催、豊島区を中心に子どもを守り、育てる活動をしている特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークが地元の子供たちの集客・引率で、㈱サンシャインシティが昼食会場の提供や展望台の案内で、それぞれ協力して、実現しました。

参加したのはネパール、中国、トルコなど外国ルーツの子どもを含めた小中学生23名と、キワニス、WAKUWAKU、サンシャインの運営スタッフ。

午前中は東京を一望できる地上60階の展望台に集まり、足元の池袋駅から遠くに見えるスカイツリーや東京タワーまで360度の眺望を楽しみました。同じフロアには鏡やミラーボールを使ったお楽しみスポットや万華鏡の覗き窓などもあり、子ども達は時間のたつのを忘れて笑顔を見せていました。

そのあと、5階の会議室に移り、サンシャイン側に用意していただいたお弁当と一緒に食べながら、楽しい交流の時間を過ごしました。

### 「楽しい体験は子どもの成長につながる」

WAKUWAKUの栗林知絵子理事長は「子ども達にとって展望台で東京を一望するのは初めての体験。みんな来ればよかったのに、他の子どもにも見せてあげたかった、と興奮してその日の様子を話してくれました。楽しいこと、うれしいことを、仲間と分かち合える体験や機会が子ども達の成長には欠かせない。今後も一緒に様々な機会を共創できれば」と振り返っています。

小さい頃からWAKUWAKUの支援を受け、いまはキワニスの奨学金を受けながら大学で学ぶプラサンガ君が、今回は子どもを引率するスタッフとして参加。「コロナ禍で勉強会が開けなかったり、子ども達も外に出たり、人と交流する機会がなかったので、久しぶりの楽しい時間、居場所だった。日本に来たばかりの子どもが同じ国の子と会えたり、オンラインで画面越しでしか見たことのない友達と初めて会えたりできて、みんなうれしかった」と感謝の気持ちを知らせてくれました。

昨年まで春に催していた「かんたん子ども料理教室」は会場のとしま園が閉園になったため、これに代わる催しとして企画したこのイベント。さらに内容を、良いものに改善しつつ、来年以降も続けたいと考えています。

(事業企画委員会)



## 病気の子ども「不安和らげる力」実感 キワニスドール

新型コロナウイルスで制約が続く中で、「キワニスドールは、病気の子ども達の不安を和らげる力があると実感しています」との声が病院関係者から寄せられています。

「病気の子供達が、ドールの表と裏に異なる柄を描いたり、たくさん色を使ってカラフルに仕上げたり、楽しそうに使っています」、「小児病棟で、ドールに絵を描いて、お医者さんごっこをしています」、「ドールは幅広い検査・治療に使い、子どもへの説明する時の視覚的アプローチに最適です」といった活用例が届く。

実習で使っている看護学校からは「ボランティアの手作りということに学生は一様にびっくりして、毎日大切に使っています」などの感謝の言葉も寄せられています。

東京キワニスクラブでは、毎年1,000～1,500個を制作し、病院や看護学校などに寄贈しています。コロナ渦でも寄贈に支障を生じないように、ボランティア活動委員会のメンバーを中心に計画的にドール作りに取り組んでいます。



晃陽看護栄養専門学校



### ◆つくる会

(株)ジェーシービー  
東京家政学院高等学校

### ◆寄贈先

亀田総合病院  
東京大学医学部附属病院  
朝霞准看護学校  
伊那中央病院  
聖隷三方原病院  
茨城県結城看護専門学校  
宮本看護専門学校  
秋田大学大学院  
慶応義塾大学病院  
晃陽看護栄養専門学校  
東京慈恵会医科大学  
聖路加国際病院  
双葉の園保育園

## キワニスワンデー 会員でドールづくり 2020.10.16

世界中のキワニスクラブ会員がいっせいにボランティア活動に取り組む「キワニスワンデー」。東京クラブは2020年10月16日の例会終了後に、キワニスドール作りとドールのキット作りに取り組みました。会長経験者数名を含む15名の会員が参加。キット作りは、①300gの綿を50gずつに小分けする袋詰め、②厚紙切りと糊付けによる型紙作り、③ミシン掛け後裁断したテキスタイルの表返し、といった日頃馴染みのない作業にも関わらず、熱心に取り組むことができました。ドール作りはさすがに手慣れた方も多く、全体として充実した奉仕活動となりました。

(ボランティア活動委員会)



# お正月は書初めに挑戦

2021.1.5



## 寺子屋 in 妙法寺

年初の「寺子屋」は恒例の「書初めの会」を開催しました。

参加児童は小学校1-2年生9人(硬筆)、3-6年生22人(毛筆)の31人でした。コロナ対応として48畳と80畳の大きな2部屋を使い、距離を空けて、安全に取り組みました。

恒例の雑煮などの昼食は取りやめ、弁当とお菓子等を持ち帰りました。

この他子ども達には、門前のCaféのソフトクリーム券と地元の方が作った柚子のジャムが配られました。



## 「密」を避けて 自主勉強

妙法寺での寺子屋は1月3回、2月3回、3月は2回を実施しました。毎回20名程度の子も達が参加し、NPO法人杉並子どもサポートと東京キワニスクラブを中心に毎回5名程度のスタッフで運営しています。コロナ対策として、メール、電話による事前予約、家庭での事前の検温、マスクの着用、開始時間を1時間遅らせ10時から実施、勉強機の消毒と段ボール板による飛沫防止、受付時の手指消毒と検温を徹底しています。

子ども達は「密」にならないように注意しながら宿題、ドリル、その他の課題を持参して自主的に勉強。課題が終わるとお絵描き、剣玉、あや取りなどが始まります。子ども達はコロナに関係なく楽しんでいるが、この時間帯は密にならないようにするのはなかなか難しい。昼食は従来、キッチンで調理して提供していたが、コロナ対策として料理なしに提供できるよう、お弁当、レトルト、お惣菜、カップみそ汁/スープなどを活用していますが、メニューのバリエーションが少ないのが悩みの種です。

(事業企画委員会)



## 障害児支援のNPO法人に社会公益賞

贈呈式 2020.10.2. 法曹会館

第54回キワニス社会公益賞は障害児を支援しているNPO法人2団体に贈られました。

最優秀賞を受賞した特定非営利活動法人「CLAP」は、障害児を始め、障害者に対し、ダンスの指導を通じ、達成感や感動する心を育むとともに、生きる喜びを与え、社会生活が円滑に行える契機を与え続けてきています。

優秀賞を受賞した特定非営利活動法人「サポートステーション輪」は、保育園、幼稚園の未就学児童を対象に、障害児と健常児を統合的に保育することにより、両者を自然に触れ合わせる活動を続けています。

(社会公益委員会)



## オンラインで心をつなぐ「VIPサロン」スタート

会員が集う場としてオンラインを活用した「VIPサロン」を2021年1月からスタートしました。新型コロナの影響で会員が直接集まることが難しい状況の中で、専門分野・趣味・経験談・文化(音楽・アート)など、会員同士の新しいコミュニケーションの機会とするのが目的です。

第1回は1月29日(金)に鳥居正男会員(ノバルティスホールディング社長)が『日本は大丈夫か?~コロナで浮き彫りになった課題』というテーマで約1時間スピーチ。第2回は、2月26日(金)に藤井隆三会員(エンパシー代表)が『コロナ禍におけるウェルビーイング(幸福度)』について話しました。2回合わせて延べ70名を超える



第一回スピーカーの鳥居会員

る会員がZOOMで参加、質疑応答もあり、賑わいの中にスタートいたしました。今後も魅力ある企画が目白押しで、新しい日常における会員交流の機会として定着をめざしていきます。



## 国際懇話会

国際的なテーマについて識者の講演を聞く国際懇話会。2020年12月14日は安倍総理時代に内閣官房参与としてスピーチライターを勤めた谷口智彦慶應義塾大学大学院教授から、外交演説下書きの苦労話をまじえながら安倍外交の成果について貴重な話を聞いた。

## 金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。会場は2021年から学士会館になりました。

- 杉井ギサブロー氏 (日本映画監督協会理事・京都精華大学教授・アニメーション映画監督)  
アトムが飛んだ日
- 辻中俊樹氏 (東京辻中経営研究所 取締役マーケティングプロデューサー)  
コロナインパクトが可視化させた未来価値
- 青木基浩氏 (NPO法人 AfriMedico理事)  
AfriMedicoが進めるOKIGUSURI
- 岩崎直子氏 (東京女子医科大学 成人医学センター 教授/所長)  
健康の積み立てをしましょう
- 鈴木弘昭氏 ((有)ベルアソシエツ 代表取締役)  
特異な出火原因と火災事故・事件
- 小倉千加子氏 (幼保連携型認定こども園学園長、心理学者、著述業)  
こども園を通して見た子どもの環境
- 市岡繁男氏 (相場研究者)  
80年周期の呪縛とコロナ禍後の相場
- 伊藤惇夫氏 (政治アナリスト)  
消えた風圧~なぜ政治が劣化したか~

## 編集後記

コロナ禍に対応し、企業ではテレワークやオンライン会議が当たり前になっているが、定年ですでにリタイアした多くの会員はクワニスで初めて経験する人も。これも新たな日常か? (広報委員会)

## チャリティゴルフ大会

2020.11.11 飯能ゴルフクラブ



ゲストを含め18人が参加、最年長の安田和義会員が見事に優勝しました。コロナの影響で久しぶりのゴルフでしたが、晴天に恵まれ大いに盛り上がりました。参加費の一部は子ども支援にチャリティとして寄付しました。(レクリエーション委員会)

## 新入会員紹介

- 鈴木弘昭 (すずぎ ひろあき)  
入会日 2020年11月 2日
- 藤井隆三 (ふじい りゅうぞう)  
入会日 2021年 2月 5日

## 事務局便り

新しい会場の学士会館に名札ボードなどの大荷物を運び入れ、さあこれからという時に2度目の緊急事態宣言が出てしまい、例会もしばらくお預け。再開が待ち遠しかった。